

# たかお治久 はる ひさ 後援会 会報 NO.10

■発行日／平成25年1月 ■編集発行／鷹尾治久後援会 ■後援会連絡所／カネカ労組高砂支部内

新年明けましておめでとうございます。

高砂市議会議員のたかお治久です。平成25年が皆様にとりまして素晴らしい年になることを祈念致しますと共に、本年も精一杯頑張りますのでご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

さて、今回の会報 (No.10) では下記のことについてご報告させていただきます。

- 1) 私が考える平成25年度の高砂市の主な課題
- 2) 12月定例議会 (平成24年12月5日～18日) の主な議決
- 3) 私の主張

## < 私が考える平成25年度の高砂市の主な課題 >



私が考える平成25年の高砂市の主な課題は上記3項目です。

勿論他にも、個別課題は山積していますが、この3項目は市民の安全安心を確保し、将来の高砂市がどうあるべきかの方向性を示すものであり、行政運営の基盤である財政にも大きく影響する課題です。それぞれについて現状と私の考えをお示したいと思います。

# 1. 公共施設の老朽化対策

昨年12月2日、中央自動車道笹子トンネルにて天井板落下事故という、あってはならない不幸な事故が起こり、その原因の一つとして**施設の老朽化**があげられています。

前回の会報 (NO.9) にも報告させて頂いた通り、現代の日本は高度経済成長時代に建設した様々な**公共施設が老朽化の時期をむかえています**。例えば、上下水道施設、治水対策としてのポンプ場、小学校や中学校、幼稚園といった教育施設、市役所庁舎、公営住宅、市民サービスコーナー、文化会館、青年の家等々、様々な公共施設が老朽化対策を迫られています。

一部情報によればこの先40年間、現状の公共施設を維持しようとした場合、1000億円を超える費用(1000億円÷40年=25億/年)を要すると言われており、高砂市が当該事業に使用できる概略費用(推定数億円)を大きく上回っています。

少子高齢化時代をむかえることが明らかな今日、従来と同等の公共施設を持つことは、より少ない市民で負担をしないといけないこととなります。



【行政の中枢 市庁舎は築65年】



この状況を見据えた場合、如何に『選択と集中』を実行できるか、が大きなポイントになり、そこで私が提案しているのが、公共施設全体の維持管理費や財政への影響等を「公共施設白書」という形で作成し、全体像と将来像を示しながら、市民への理解をはかっていくべきということです。**老朽化問題は時間の経過と共に危険度が高まっています。早急な決断により、高砂市の公共施設の在り方を示すべきと考えています。**

# 2. 治水対策

以下、対策別に現状と今後を一覧にしましたのでご覧ください。

主な治水対策	現 状	今 後		
		目 標	完了年	費 用
法華山谷川流域整備	H24年度を測量の年としH25年度より5年間かけて対策事業を実施予定	床上浸水ゼロ	H29年度	県・市全体で150億円を予定
鹿島川・松村川流域整備	平成24年度中に計画を策定予定	未 定	未 定	未 定
下水道設備・ポンプ場整備	各ポンプ場の増設計画は決定しているが、市内一円の雨水対策に関してはシュミレーションを行い施策を検討することとなっています。	未 定	未 定 (H27年迄に多くのポンプが増設される見込み)	ポンプ場関連で89億円。他は未定



海に接する高砂市、歴史を振り返ると治水対策への費用はいかほどでしょうか?また、今後どれ程の対策費を費やせば安心した生活を営めるまちになるのでしょうか?平成23年9月の浸水被害以降懸念されているのは、河川では法華山谷川と鹿島川・松村川流域であり、また地域によっては下水道整備を主要対策として実施することを考えております。



【対策が求められる鹿島川・松村川】

### 3. 広域化行政 (ゴミ処理)

#### 【現状】

現在、高砂市は加古川市・稲美町・播磨町と共同で平成35年稼働を目標に、ゴミ処理施設の共同運営の検討を進めています。

平成24年度には、その候補地(現時点では未公表)が決定する予定になっており、平成35年迄に工事業者の選定や工事、運営方法、各自治体の負担割合等々が決定される予定です。

#### 【課題】

もし他自治体に共同ゴミ焼却場が建設された場合、同施設を高砂市内に建設するよりも実費負担は高くなる可能性があり財政運営上は好ましくありません。その一方、市内に建設した場合、他自治体からゴミが持ち込まれることとなり、交通安全面等周辺環境の変化が懸念されます。

しかし、今後の少子高齢化、人口減少社会を見据えた場合、この**広域行政は必須の手法**と考えており、各自治体が握手し、上手く実現することが重要と考えます。



## <高砂市議会 12月定例議会の主な議決 他>

### ●12月定例議会の主な議決事項

- ・**沖浜ポンプ場主ポンプ機械設備工事請負契約** 契約者＝(株)クボタ 契約金額121,716(千円)
- ・**旧阿弥陀小学校跡地土地(13,702㎡)の売却** 売却相手先＝ヤング開発(株) 売却金額457(百万円)
- ・**障害者福祉金を廃止する条例を定めました。**これにより、現在等級別に年額30,000円～12,000円支給されている障害者福祉金は平成26年度に終了することとなりました。

\*改正の趣旨:障害者施策は給付から自立支援に転換されており、高砂市の自立支援施策を充実し拡充するため、障害者福祉金を見直し、廃止します。(本件、後段に私見掲載)

- ・**長寿祝金の廃止** 従来は77歳時に5千円、100歳時に祝状、記念品をお贈りしていましたが、平成25年度以降、88歳時、100歳時に祝状・記念品を贈呈するのみとなります。

## <私の主張>

12月定例議会の議決事項の中に「障害者福祉金の廃止」があります。本件は自立支援法に関連し障害者を社会全体で支援することを念頭に、インフラ等も整えていくこととし昭和60年度には1億円以下であった障害者関連経費は平成23年度には10億円超となっています。個人への支援から社会全体の支援へ、難しい決断でしたがその方向は間違いでないと考え賛成させて頂きました。こういった考えや日々の私の活動は、ブログに掲載させて頂いております。是非ともご覧頂きたく、宜しくお願い申し上げます。



### ブログのご案内

#### 「市議会議員って何しているの？」

こんな素朴な疑問をもっていた議員就任前。議員になってこのことをきちんと皆様にお伝えしたく、ブログを通じ、日々の活動、考え方を平日はほぼ毎日更新させて頂いております。

インターネットにて接続の上、是非ともブログ“**たかお治久の活動報告**”一度ご覧頂きたく、宜しくお願い致します。



現在の閲覧頂いている数は100人位です。何とか今年は500人位にしたいと思い、広報を行っていきます。是非とも宜しくお願い致します。

鷹尾治久後援会 会長:林 靖二 副会長:大森 幹治 副会長:北野 光昭 幹事:畑中 隆禎 会計:谷村 英雄 監査:奈良 征岳

日常お困りの市政相談は、お気軽にお電話ください。連絡所 / TEL.079-445-2395 (カネカ労働組合高砂支部内)